

復興支援連携促進事業

●協働先 NGO/NPO

平和貢献NGOsひろしま

(財)自治体国際化協会 自治体国際協力促進事業 助成対象事業

実施地域

カンボジア王国

事業実施期間

2008年～継続中

協力形態

補助



実施内容

- ・カンボジアの小学校での身体測定，健康診断，歯科検診
- ・ウイルス性肝炎の調査

事業目的／背景

【背景】

カンボジアではポル・ポト政権時代（1975～1979）に、知識人層を中心に数百万人レベルの大虐殺が行われ、医師の数は激減した。ポル・ポト政権崩壊後は、質より量の充足を目指して、医療従事者が速成されたが、量的な確保にとどまり、質的な面では課題を抱えている状況である。

特に地方は厳しい状況にあり、カンボジア政府の関係省においても、農村地域に対する支援を要請されていた。

【目的】

- ・地域の保健医療の専門家を派遣することにより、現地の学校における児童の健康管理意識・能力の向上を図る。
- ・感染症、歯科の検診体制の整備により、現地住民の健康管理意識の向上と死亡率の抑制を図る。
- ・広島コミュニティー発の国際貢献を推進するため、行政、NGO、地域の保健医療関係者等の連携による取組モデルを構築する。

協働のきっかけ

広島県では2003年に策定した「ひろしま平和貢献構想」の推進に向けて、NGO、大学等と連携して平和貢献活動を進めていくこととしており、2005年からカンボジア復興支援プロジェクトを実施するに当たって、平和貢献を指向する県内NGOのネットワーク組織である、平和貢献NGOsひろしまと連携してプロジェクトを行っていくこととした。

役割分担

自治体側：

広島県はかつて、支援地域であるカンボジア国シムリアップ州において保健医療分野の支援を行っており、その経験を活かし、ノウハウの提供を行ったり、個々の活動における問題点を協議する場を設けるなど、全体のコーディネートを行っている。

NGO/NPO側：

NGOの持つ人的資源（医師等）を活用して、現地において専門的な調査、検診、健康教育等の活動を行っている。

協働によるメリット等

メリット：

NGOの持つ人的資源（医師、大学教員等）を活用して、専門的かつ機動的な支援活動を行うことができた。



身体測定の様子

協働する上で配慮した点

県の施策との方向性とNGOの事業方針との調整

事業評価／今後の展望

県内のNGOは比較的小規模な団体が多く、財政的、組織的基盤が十分だとはいえないため、今後、県内NGOを中心に連携を進め、各々が得意とする分野を有機的に組み合わせ、より迅速で効果的な国際平和貢献活動を推進するネットワークを構築していく必要があると考える。



歯科検診の様子

平和貢献NGOsひろしま

広島県内を拠点に国際協力事業を展開するNGOが、ネットワークを強化し、資金調達支援と人材育成、海外事業を展開する組織。広島戦後復興の経験を生かす「平和貢献」を大切にし、復興支援や自立支援活動を行っている。